

夜の祈り 自由参加で徹夜祈禱会を計画する(10日目などに)

『10 日間の祈り』の中で徹夜祈禱会を検討してみてください。例えば 夜 18:00 開始、翌朝 6:00 終了のような形です。(高齢者や健康面で不安な方の参加はお控えください)

どうして夜の祈りなのですか？

一晩中あるいは夜のひと時、目を覚ましていたり祈ったりすることが、“聖なる”ことなのではありません。そうではなく、人々が忙しくも慌ただしくもない唯一のときが、夜なのです。一夜を徹して起きていることを目標にしないで、各々が十分に時間をかけて祈り、また祈るように神様が期待しておられることを祈り切るために用いましょう。

信徒リーダーの方々には、十分に休憩をとりながら徹夜して祈る体験をすることをお勧めします。リーダーとして小グループの祈りを導くときに、どのくらいの休息時間が必要か、またどのタイミングで次の祈りの項目に移るべきかの雰囲気を感じ取ることができるでしょう。一般的には 90 分間毎に、最低 10 分間休息することを推奨しています。

祈りの時間に聖句の朗読を取り入れることも効果的です。すべての提案事項を行うか、一部を採用するかは、あなたの教会、小グループに合わせて適切に調整してください。聖霊の導かれるままに、順序も方法も自由に変更して結構です。

夜の祈りの計画の立て方

- ◆**賛美礼拝から始めましょう。**はじめに祈りと賛美によって神様をほめたたえます。
- ◆**(罪の)告白のときを持ちます。**あなたの祈りを神様が聞いてくださるのを妨げるものが何もないようにしなければなりません。参加者が個人的に告白したり、共に分かち合うときを持つのです。個人的な罪は、個人的に神に対して告白し、会衆の罪は公に告白するように促してください。ダニエル書 9 章 1~19 節に、神の民の罪を公然と言い表し、執り成しをするダニエルの姿が描かれています。教会の罪を他人事にせず、自分自身の問題として告白するように参加者を励ましてください。
- ◆**徹夜祈禱会に出席している方々の必要を祈ります。**非常に多くの人々が、傷ついていた、祈りを必要としていたり、あるいは、叶えられる見込みのないような問題を抱えています。輪になって、真ん中に椅子を一つ置き、特別な祈りのリクエストがある人を一人ずつ座らせて、その人のリクエストを分かち合います。周りにいる信徒は、その人の肩や背中に手をおいて具体的な必要について祈り合い、そして神様の約束に頼ります。この経験を通して、どれほど多くの人々が傷つき、祈りを必要としているかにあなたも驚かされるはずです。
- ◆**グループを二つに分けるのも効果的です。**一つの部屋には女性、もう一つの部屋は男性と分けて祈るようにします。女性グループのリーダーは女性、男性グループのリーダーは男性がつかめます。全員では分かち合うことの難しい個人的な祈りがあるものです。このような場合は同性同士のほうが共有しやすいのです。
- ◆**再びひとつの部屋に集まり、地域と教会の必要のために祈りましょう。**そして次ページからの世界中の教会からの祈りの提案に基づいて祈ります。
- ◆**このほかに、『10 日間の祈り』で祈ってきた5~7人のために、また地域の必要や課題のために祈る時間も確保しましょう。**
- ◆**祈るためにふさわしい聖句を選び、それを通して祈ります。**
- ◆**賛美と感謝のセッションで、祈りの時間を閉じます。**